

⑯日本国特許庁 (JP)

⑯特許出願公開

⑯公開特許公報 (A) 平2-131629

⑤Int.Cl.
H 04 B 7/12

識別記号 厅内整理番号
8226-5K

⑦公開 平成2年(1990)5月21日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

⑥発明の名称 周波数ダイバーシティ用送受信装置

⑦特 願 昭63-286224
⑧出 願 昭63(1988)11月12日

⑨発明者 百合功 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内
⑩出願人 日本電気株式会社 東京都港区芝5丁目33番1号
⑪代理人 弁理士 鈴木 章夫

明細書

1. 発明の名称

周波数ダイバーシティ用送受信装置

2. 特許請求の範囲

1. 2つの異なる周波数信号を送受信する装置において、送信系は中間周波数IFに対する周波数変換部を周波数 F_{Lo} の1つの局部発振部と1つのミキサで構成して2つの異なる周波数 F_1 ($= F_{Lo} + IF$), F_2 ($= F_{Lo} - IF$) の送信周波数を作り、受信系は受信周波数 f_1 , f_2 に対する周波数変換部を周波数 f_{Lo} ($= (f_1 + f_2) / 2$) の1つの局部発振部と2つのミキサで構成して中間周波数IFの信号を作るよう構成したことを特徴とする周波数ダイバーシティ用送受信装置。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明はマイクロ波帯等で使用する周波数ダイバーシティ用送受信装置に関し、特に回路構成の簡略化を図った送受信装置に関する。

〔従来の技術〕

従来、この種の周波数ダイバーシティ送受信装置は、送信系及び受信系の夫々が異なる周波数の局部発振部を備えた構成となっている。

第2図はその一例を示すブロック図であり、同図(a)は送信系、同図(b)は受信系を示している。図において、送信系は、変調部1で変調された中間周波数IFの信号をハイブリッド11で2分岐し、夫々ミキサ2a, 2bに送る。そして、各局部発振部3a, 3bから出力される周波数 F_{Lo1} , F_{Lo2} の信号により、IF信号はミキサ2a, 2bで周波数変換される。バンドパスフィルタ4a', 4b'は夫々中心周波数が($F_{Lo1} + IF$), ($F_{Lo2} + IF$)となっており、ミキサ2a, 2bで周波数変換された周波数成分の内、希望の周波数成分のみが通過される。バンドパスフィルタ4a', 4b'を通った送信周波数 $F_1 = F_{Lo1} + IF$, $F_2 = F_{Lo2} + IF$ は夫々電力増幅部5に送られ、所要の電力まで増幅した後、この送信系から出力されアンテナ装置に送出される。

また、受信系は、アンテナ装置から受信した周波数 f_1, f_2 の信号は夫々低雑音増幅部 6 で低雑音増幅され、ミキサ 7a, 7b に送られる。そして、局部発振部 8a, 8b から出力される周波数 f_{lo1}, f_{lo2} の信号により、これらの受信周波数 f_1, f_2 はミキサ 7a, 7b で周波数変換される。このとき、局部発振部の出力周波数は、 $f_{lo1} = f_1 + 1F, f_{lo2} = f_2 + 1F$ となっているので、ミキサ 7a, 7b の出力周波数はいずれも $1F$ となる。この $1F$ 周波数が夫々復調部 9 に送られる。復調部 9 で復調されたベースバンド信号は、両方共ベースバンド合成部 10 に送られ、ここでベースバンド合成された後、受信系から出力され端局装置等に送られる。

(発明が解決しようとする課題)

上述した従来の周波数ダイバーシティ用送受信装置は、送信系においては送信周波数 F_1, F_2 を異なる周波数の局部発振部 3a, 3b とミキサ 2a, 2b を用いて作る必要がある。また、受信系においては、受信周波数 f_1, f_2 を異なる周

波数周波数の局部発振部 8a, 8b とミキサ 7a, 7b を用いて作る必要がある。このため、送信系及び受信系に多数の局部発振部とミキサが必要となり、回路構成点数が多くなり、かつ回路が複雑になるという問題が生じている。

本発明は局部発振部やミキサを低減して回路構成を簡略化した送受信装置を提供すること目的とする。

(課題を解決するための手段)

本発明の周波数ダイバーシティ用送受信装置は、送信系は中間周波数 $1F$ に対する周波数変換部を周波数 F_{lo} の 1 つの局部発振部と 1 つのミキサで構成して 2 つの異なる周波数 $F_1 (= F_{lo} + 1F)$, $F_2 (= F_{lo} - 1F)$ の送信周波数を作るよう構成し、受信系は受信周波数 f_1, f_2 に対する周波数変換部を周波数 $f_{lo} (= (f_1 + f_2) / 2)$ の 1 つの局部発振部と 2 つのミキサで構成して中間周波数 $1F$ の信号を作るよう構成している。

(作用)

ドバスフィルタ 4a, 4b により夫々の周波数成分 $(F_{lo} + 1F), (F_{lo} - 1F)$ のみが通過されて夫々送信周波数 $F_1 = F_{lo} + 1F, F_2 = F_{lo} - 1F$ の信号となり、電力増幅部 5 において所要の電力まで増幅されてアンテナ装置に出力される。

一方、受信系は、2 つのアンテナ装置に夫々低雑音増幅器 6 を接続し、更にミキサ 7a, 7b と 1 つの局部発振部 8 (周波数 f_{lo}) を接続している。各ミキサ 7a, 7b には夫々復調部 9 を接続し、各復調部 9 の出力をベースバンド合成部 10 で合成するようにしている。

この受信系では、アンテナ装置から受信された周波数 f_1, f_2 の信号は、夫々低雑音増幅器 6 で低雑音増幅され、ミキサ 7a, 7b に夫々送られる。局部発振部 8 の出力周波数 f_{lo} は、ミキサ 7a, 7b の双方に送られており、前記受信信号は夫々ミキサ 7a, 7b において周波数変換される。ここで、局部発振周波数 f_{lo} を $(f_1 + f_2) / 2$ に設定すれば、 $|f_1 - f_2| = 2 \cdot 1F$ の関係があることから、ミキサ 7a, 7b で周波数

上述した構成では、送信系は周波数変換部を 1 つの局部発振部と 1 つのミキサで構成でき、受信系は周波数変換部を 1 つの局部発振部と 2 つのミキサで構成でき、夫々ミキサや局部発振部の数を削減することが可能となる。

(実施例)

次に、本発明を図面を参照して説明する。

第 1 図は本発明の一実施例のブロック図であり、同図 (a) は送信系、同図 (b) は受信系を夫々示している。

図示のように、送信系は変調部 1 に対して 1 つのミキサ 2 と局部発振部 3 (周波数 F_{lo}) を接続し、かつミキサ 4 の出力に対して異なる周波数 $(F_{lo} + 1F), (F_{lo} - 1F)$ の各バンドバスフィルタ 4a, 4b を接続し、更に電力増幅部 5 を夫々接続している。

この送信系では、変調部 1 で変調された中間周波数 $1F$ の信号はミキサ 2 に送られ、局部発振器 3 から出力される周波数 F_{lo} の信号により $1F$ 信号はミキサ 2 で周波数変換される。そして、バン

変換された受信信号の周波数は夫々 f_1 となる。この中間周波数 f_1 は夫々復調部 9 で復調され、ベースバンド合成部 10 においてベースバンド合成され、端局装置に出力される。

したがって、この構成によれば、送信周波数 F_1 、 F_2 、受信周波数 f_1 、 f_2 、送信局部発振周波数 F_{lo} 、受信局部発振周波数 f_{lo} 、中間周波数 f_1 を上述した関係となるように設定すれば、周波数ダイバーシティ送受信が可能となり、かつ送信系ではミキサと局部発振部を低減し、受信系では局部発振部を低減して、回路構成の簡略化を達成することができる。

(発明の効果)

以上説明したように本発明は、中間周波数 f_1 、送信系局部発振部の周波数 F_{lo} 、送信周波数 F_1 、 F_2 、受信周波数 f_1 、 f_2 、及び受信系局部発振部の周波数 f_{lo} を所定の関係となるように設定しているので、送信系は周波数変換部を 1 つの局部発振部と 1 つのミキサで構成でき、受信系は周波数変換部を 1 つの局部発振部と 2 つのミキサで

構成でき、夫々においてミキサや局部発振部の数を従来構成に比較して削減することができ回路構成の簡略化が実現できる。

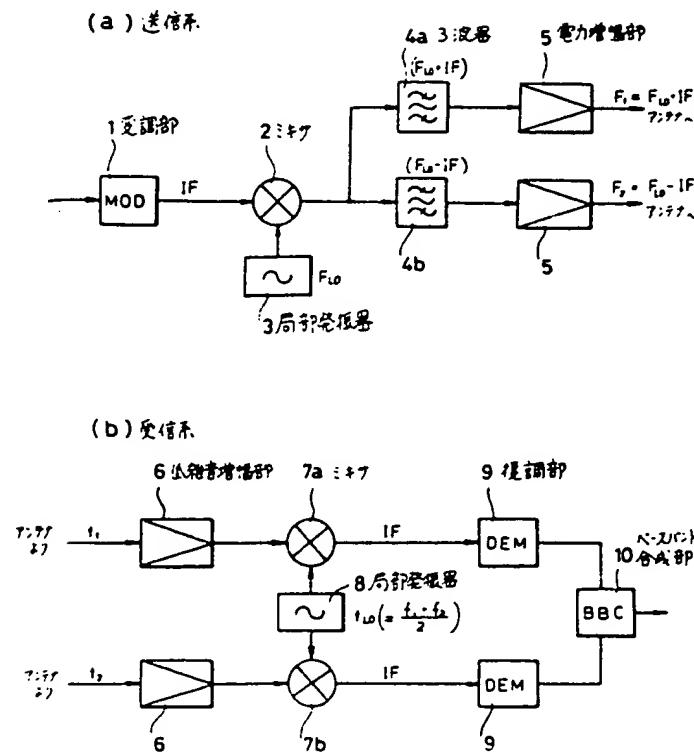
4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本発明の一実施例のブロック図であり、同図 (a) は送信系、同図 (b) は受信系を夫々示す図、第 2 図は従来の一例を示すブロック図であり、同図 (a) は送信系、同図 (b) は受信系を夫々示す図である。

1 … 変調部、2、2a、2b … ミキサ、3、3a、3b … 局部発振部、4a、4a'、4b、4b' … バンドパスフィルタ、5 … 電力増幅部、6 … 低雜音増幅部、7a、7b … ミキサ、8、8a、8b … 局部発振部、9 … 復調器、10 … ベースバンド合成部、11 … ハイブリッド。

代理人 弁理士 鈴木 章夫

第 1 図



第2図

